

新年度を迎え、育友会の皆様へ



育友会と2022年度の 専修大学について

学長 佐々木重人

ささき しげと 1955年東京都生まれ。78年専修大学商学部卒業。83年専修大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得満期退学。同年専修大学商学部助手。講師、助教授を経て95年に教授。商学部長（2013～16年）。博士（経営学）神戸大学。税理士試験委員（11～13年度）。日本会計史学会会長（13～16年）。16年より専修大学学長。専攻は会計史。

ご父母・保護者の皆様には、いつも本学の教育・研究活動にご理解を賜っておりますことに心より感謝申し上げます。とりわけ本年度から、あらたに育友会員となられました新入生のご父母・保護者の皆様には、ご子弟・ご子女の本学への入学に際しまして、多大なご支援をいただきましたことに対して、厚くお礼を申し上げます。

育友会は、専修大学の学部学生のご父母・保護者の皆様が会員となり、大学での教育や課外活動、各キャンパスでの生活全般に関わる情報を本学と共有し、学生を共に支援する組織です。本学に対する多方面に及ぶ育友会からの支えは、私どもにとって大きな心の支えとなっております。

昨年度もコロナ禍は断続的に続き、本学も大きな影響を受けました。授業運営の基本方針として登校日数の目安（対面授業の機会が比較的多く必要な1年次および2年次の学生には最低3日、3年次は同様に最低2日、4年次は最低1日）やキャンパスへの同時入構者数の上限の設定、さらには教室内の換気を徹底する対策を講じ、2021年度はスタートしました。しかしながら、キャンパスが所在する東京都や神奈川県への「緊急事態宣言」「まん延防止等重点措置」の発出等があり、当初予定からの変更を余儀なくされる面が少なからず生じてしまいました。

こうした中、育友会からのご寄付によって、学生が購入した教科書の発送に係る費用を無料にして学生宅に送付することができたことは、困難に立ち向かってきた本学にとって大きな励みとなりました。

また、学生食堂を中心とする学内各所へのパーティションやサーキュレーターを設置、食料支援プロジェクトへの支援など、学生が安心してキャンパス生活を送れる環境づくりにご協力いただいたことも、大変ありがたいサポートでした。

本年度においても、引き続き育友会より様々なご支援をいただいておりますことに厚くお礼を申し上げます。2022年度は、これまでの経験を基礎とし、教室における「密」を回避するため各教室の定員を本来の3分の2程度としたうえで、学部授業は概ね9割程度の授業を対面形式で、また1割程度の授業はオンライン形式で実施する計画を立てました。授業科目や取り扱う内容によっては、オンラインの方が高い学修効果を得られると考えられる場合もあることから、より一層のベストミックスを目指していきます。（※対面・オンラインの比率は、感染状況等により変更する場合があります。）

本学は、皆様からの声を教育活動等に反映することを重視していきたいと考えております。育友会が夏期休暇中に全国67支部に分かれて実施する「支部懇談会」にぜひお越しください。昨年度はコロナ禍の影響で3支部のみの開催となりましたが、本年度は、感染対策を講じて、各支部が準備した会場にて、本学教職員からお伝えする大学の近況や就職に関するご報告のほか、個別面談を通じてのご相談にも応じさせていただく予定です。

本年度も引き続きご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。